



野菜・畑作用殺虫剤

トルネードエース[®] DF



唯一無二の効果で防除の質を上げて、
作物の品質も上げる。

ローテーション防除の質を高めて食害をシャットアウトしたいあなたをサポート!

大型チョウ目害虫にも効果が高い。

害虫の食害をすぐに止める。

既存薬剤の抵抗性害虫にも有効。

■適用害虫と使用方法

2018年6月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インドキサカルブ及びインドキサカルブMPを含む農薬の総使用回数			
キャベツ	ヨトウムシ ハスモンヨトウ タマナギンウバ ハイマダラノメイガ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内			
	はくさい	コナガ アオムシ						1000~2000倍		
だいこん	ヨトウムシ ハイマダラノメイガ	2000倍		収穫21日前まで						
ブロッコリー	カブラハバチ コナガ アオムシ			収穫14日前まで						
ねぎ	シロイチモジヨトウ	1000倍		収穫前日まで						
いちご なす トマト	ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000倍		8~16倍				800ml/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布
ピーマン	オオタバコガ									
レタス 非結球レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウムシ									
えだまめ	ハスモンヨトウ	2000倍		100~300ℓ/10a				3回以内	散布	3回以内
だいず	ハスモンヨトウ									
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ									
さといも	ハスモンヨトウ									
しょうが	ハスモンヨトウ アワノメイガ									
たばこ	タバコアオムシ ヨトウムシ	100~180ℓ/10a	100~180ℓ/10a	収穫10日前まで	1回	1回				

△効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 害虫は同一剤の連続使用により抵抗性害虫が出現し、効果の劣った例があります。使用に当っては、関係機関の指導を受けてください。また、過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場合は、食入前の若令幼虫期に散布してください。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - ①散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - ②散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。

③関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- ④散布直後から1日後まではミツバチを移動させるか、巣門を閉じてください。
- マルハナバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はマルハナバチ及び巣箱にかからないようにしてください。また、散布直後から6日後まではマルハナバチを移動させるか、巣門を閉じてください。
- つまみ菜、間引き菜には使用しないでください。
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努めてください。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

グループ	22A	殺虫剤
------	-----	-----

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項: 薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ちトルネードエース®DFのグループ22A殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーション使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ22A使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
 (1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト (<http://www.irac-online.org>)
 (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
 ●空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください ●防除日誌を記帳しましょう。

